令和五年度熊本県立大学特別講座

大人のオープンキャンパス

古典の地理学

――歩いて読む文学の世界

連続講座 古典の世界

今年は連続講座でお届けします。題して「古典の地理学」。古くは『風土記』が古代の地方風物を記録にとどめたように、古典は土地に結びついた記憶を様々に伝えてきました。そして、ある時には和歌・物語の形をとり、ある時には名所記や地誌として、土地の記憶は受け継がれてきました。「土地の記憶」をキーワードに、書物を通して居ながらにして各地をめぐり歩いてみませんか。

受講料無料

とき 令和５年 11月4日(土)・18日(土) 25日(土) 3回講座

場所 熊本県立大学 CPDホール

主催 熊本県立大学
文学部 日本語日本文学科

問合せ先 地域・研究連携センター
TEL:096-321-6612
E-Mail:renkei-tel@pu-kumamoto.ac.jp

令和五年度熊本県立大学特別講座

大人のオープンキャンパス

連続講座／古典の世界

古典の地理学

――歩いて読む文学の世界

講座概要

文学部
日本語日本文学科 准教授
岩田 芳子

第1回 11月4日(土) 13:00～14:30

文学として読む九州古風土記

8世紀の日本では、各国の歴史や地理的情勢を把握するために、地誌の編纂が、国家事業として実施されました。このとき編纂された地誌を、古風土記といいます。古風土記には、土地の歴史が、神話や伝説の形で残されてあり、文学性豊かな内容を伝えています。この講座では、九州の古風土記を取り上げて、皆さんと一緒に読み解いてみたいと思います。

文学部
日本語日本文学科 教授
鈴木 元

第2回 11月18日(土) 13:00～14:30

歌枕幻想―和歌地名のイメージと現実―

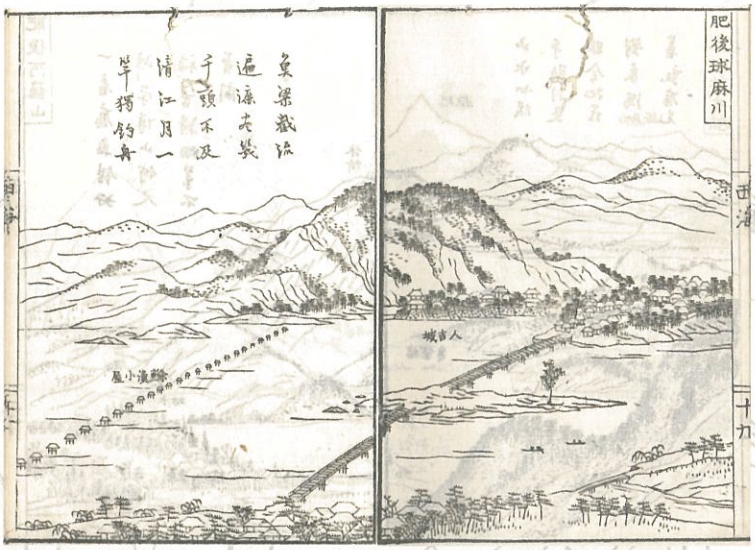
古来より名高い土地、その土地の名は、実は多くの場合、和歌を通じて名所となり、名所は和歌の再生産により歌枕として記憶に定着してきたのでした。そして歌枕は、再び和歌創作により類型化されたイメージが強化され、やがて現実からは遊離した像を結びはじめます。宇治、富士山、筑前刈萱の関などを例に、土地のイメージに何が生じたのか、そんなお話をしたいと思います。

文学部
日本語日本文学科 准教授
真島 望

第3回 11月25日(土) 13:00～14:30

近世地誌に見る九州・熊本の名所と歌枕

近世（江戸時代）は地誌や案内記と呼ばれる、その土地に積み上げられた歴史や物語を述べる書物が大いに発展し、出版された時代です。交通網の整備などによって、実際に名所を訪れることが可能になったことを反映した事態ですが、それに伴って名所や歌枕のあり方も変容してゆくことでしょう。近世地誌を繙きつつ、九州や熊本の名所がどのように認知、受容されていたのかについて考えてみたいと思います。



〔参考〕『山水奇観』前編（寛政12年刊）：球磨川、人吉付近を描く

交流会のお知らせ

第2回講座終了後に交流会を開催します。講師への質問で知識をさらに深め、共通の興味を持つ人たちとのつながりをつくりましょう。どなたでも気軽にご参加いただけます。

日時 11月18日(土)
15:00～16:00(予定)

場所 熊本県立大学 大学会館

参加費 無料

申込について

申込方法

WEBサイト地域ラブラトリーの受講生募集ページに設置した応募フォームからお申込みください。

対象者 中学生以上

定員 100名

受講料 無料

申込締切 令和5年10月29日(日)

場所 熊本県立大学 CPDホール